

第3回バイオマス活用事業実現可能性検討委員会
議事要旨

■年月日：平成30年9月25日(火) 13:15～15:45

■場 所：大熊町役場 いわき出張所 (2階多目的ホール)

■出席者：【検討委員】(敬称略)

双葉地方広域市町村圏組合 事務局長 秋元 正國

大熊町役場 副町長 吉田 淳

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 山岡 賢

福島大学 教授 新田 洋司

福島大学 特任准教授 石井 秀樹

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野中 章久

大熊町農業委員会 会長 根本 友子

福島県相双農林事務所 双葉農業普及所 所長 佐久間 秀明

大熊町役場 産業建設課長 柳田 淳 、以上9名

【事務局】

大熊町役場 産業建設課 課長補佐 澤内 和彦

大熊町役場 産業建設課 主任主査 東 裕行

大熊町役場 復興事業課 森 俊貴

(株)アグリパートナーズ 小野寺 健一 、以上4名、計13名

■欠席者：なし

■資 料：資料1 検討委員会 今後のスケジュール

資料2 第1回検討委員会の指摘事項について

資料3 試験栽培レポート

資料4 イノシシ被害・担い手の状況について

資料5 エネルギー作物の品目比較

資料6 農業機械について

■資料説明及び意見交換

【資料2 第1回検討委員会の指摘事項について】(事務局)

①各作物の収穫方法等について

②でんぷんのメタン発酵特性について

③乾式の発酵残渣の肥料成分について

④アンモニア阻害対策について

【資料3 試験栽培レポート】(石井委員)

- ・大熊町大川原試験圃場で行われているエネルギー作物試験栽培の概要説明。
 - デントコーン収穫：8月31日。収量は集計中。
 - ソルガム収穫：10月5日予定。
 - エリアンサス、ジャイアントミスカンサスは、主に事務局管理。
- ・施肥・無施肥区の対照試験。施肥量による成長量の差が明確。
- ・鳥獣害はないが、害虫による食害あり。獣害対策は電気柵、害虫予防は農薬散布。

【資料4 イノシシ被害・担い手の状況について】（事務局）

- ・イノシシ被害について、町内の被害写真や、捕獲事業など説明。
 - イノシシの習性や、獣害対策手法について意見交換。
- ・担い手問題について、過去に行われたアンケート結果などをもとに説明。
 - 帰町後の営農者の内訳についてなど意見交換。

【資料5 エネルギー作物の品目比較】（新田委員、石井委員）

- ・栽培品目及び、作物別のガス発生量について説明。
 - 品目：デントコーン、ソルガム、エリアンサス、ジャイアントミスカンサス、ジャガイモ、サツマイモ、ライムギ
- ・第5回の発酵方式について検討する際の基礎資料として、まとめるべき項目について意見交換。必要と考えられる項目は、次の7項目。
 - 収量、ガス発生量、鳥獣害、省力性（作業方法）、収穫期、残渣還元時期、地域適応性（従事者の栽培意欲）
- ・作物ごとの鳥獣被害の受けやすさについて確認。
- ・バイオガス発生量は条件により変動する。

【資料6 農業機械について】（佐久間委員）

- ・栽培候補として検討されている7品目で必要とされる農業機械について、また、機械農業の基本的な考え方について説明。
- ・現状の水田の区画を変更しない、一貫した機械化農業の提案。

■検討内容

- ・候補品目の栽培実績について
 - デントコーン、ソルガムは震災前に双葉地区で栽培実績あり。ただし、ソルガムは台風による倒伏があり、あまり広まらなかった。ジャガイモ、サツマイモは栽培実績が少ない。
- ・連坦による大区画化などの圃場整備について
 - 農業の効率化を進めるにあたっては大規模化による自動化の推進が効果的と思われる

るが、複数地権者にまたがる区画を統合する場合は、地権者の心情的に難しいと思われる。

- ・土地の使用について

- 全国的には管理料を支払って保全管理を委託する事例が多いが、大熊町でその考え方が馴染むかどうかは分からない。

- ・営農組織について

- いわゆる「担い手」が、どのような人たちとなるのか。震災以前から大熊で農業を営んでいた人たちのみならず、農業委員会や生産組合と話し合いながら、企業参入も視野に入れて考えていく必要がある。

以上